
少年少女のソノリティ

List

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年少女のソノリテイ

【Nコード】

N3897Y

【作者名】

List

【あらすじ】

音楽が好きな少年と彼と一緒に歩む少女。それと少年少女の友達と先生たち。色んな人を巻き込んで一つの音を奏でます。どんなに辛い時でも少年は笑い、少女は彼を支えます。

青春を謳歌する彼らのほのぼのとした恋物語。コメディあり友情ありシリアスあり…

一つ一つ学びながら彼らは成長して行くのです。

これは前に投稿してましたが事情により再投稿です。

新たな始まり（前書き）

前のアカウントを消しての再投稿です。
題名とか色々いじってます。

新たなる始まり

「春。俺―阪上芳樹>さかがみよしきは高校生になった。と言っても半分くらいは地元の友達だったりするからあまり変わり様がない気もするのだが、やはり新しい所は胸が踊る。」

俺の通う学校：狭丘学校。4階建て3棟、温水プール完備、ライブスタジオ完備というなんとまあ公立高校の割にはやたらと設備の良い学校だ。

入学式なので、小学校からの友人 南部幸平>なんべこうへいくとこの学校の入学式に来た。

短髪で容姿端麗どちらかというところ可愛い系か？凄く優しい雰囲気の俺の親友だ。

「やっぱり、新しい学校はいいねえ……」

今縁側にいるおじいちゃんの様なほんわかした表情だ。これが女子の心を捉えるのか？と思う。

「言っておくけど、芳樹もかっこいいからね？」

「かっこよくはないが……どうやって心の声を読んだ？」

「高校で良い事有るといいねえ……」

「いや、話の話題さりげなく変えないでくれない？」

「あはは…ごめんごめん。でも、ちょっとワクワクしない？」

確かにそうだなと言い返し、何と無く校舎を仰ぎみる。

彼処の3年間でどんな出会いがあつてどんな人と会つてどんな風に過ごすのかな…

「…芳樹、カッコつけてる？」

「今の感傷的な気分返して！」

ポコッと殴つた。幼馴染つてのはいいいけど心の中まで見透かされるから嫌だ。

俺たちは入学式が行われる体育館に入ってきた。ここで一緒にクラス発表も込めてしてしまうらしい。張り紙に貼つて有るクラスの名簿を見てクラス別に座るらしい。

「おい、芳樹くん！幸平くん！こつちだよ！」

ソプラノが響いた様な声がした。隣を見ると幸平が笑顔になつてた。分かりやすい。

「真琴さん！同じクラス？！」

「うん！芳樹くんもだよ！宜しくね？」

「ああ、真琴さん。宜しく」

俺たちが真琴と読んだ女の子…磯部真琴だ。俺の場合は中学からの友人。幸平は幼稚園の時の幼馴染らしい。

150cmぐらいしかない身長。茶髪黒目…この茶髪は地毛らしい。後ろに一本で束ねられてる髪はどこか尻尾に見える。

何処かリスの様な小動物を彷彿させる。目とか完全にリスだしさ…！

で、幸平の好きな人。こんなに分かりやすかったら直ぐに分かるよな。不思議な事に真琴さんはわかってないんだ。

で、真琴さんは幸平の事が好き。前にもバレンタインデーやら何やらで相談されてる。

もう、焦れたい…何かのラブコメを見てるみたいな感じた。

「でさー……でねー……」

「へー……それってさー……」

あら、見事に二人の世界になって俺は取り残されたよ…

とりあえず入学式が始まるまで寝る事にしますか…

俺が起きると入学式が始まった。後ろにいた金髪のいかにも遊び人みたいな奴に起こされて気づいた。隣は幸平なのだが…まだ真琴

さんと話してらあ…

色恋もいいけど、少しは親友と見ろや。

いろんな思いを混ぜて幸平の足を踏んだ。

叫び声が響いたのはしょうがない。お前が悪い。

始業式が終わると教室に入られ教員が来るまで待機になった。

俺はたまたま隣になった幸平と話していた。

「今日、芳樹の家に行つていい？」

「ああ、いいぞ。でも、散らかつてるからな」

「ああ、ギターね…触らせてくれる？」

「構わんよ」

今出たけど、俺はギターが好きだ。Freedomってバンドにハマつて始めたんだ。

かれこれ2年はやつてるのかな。やるほどハマるから楽しいんだ。

「…寝るから適当に起こしてくれ…」

「ん、分かったよ」

そうして俺は意識を閉ざした。

何か夢を見たが…忘れた。とりあえず、帰って幸平と遊ぼう。

隣にいる幸平に声を掛けて学校を後にした。

新たな始まり（後書き）

感想お待ちします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3897y/>

少年少女のソノリティ

2011年11月10日02時28分発行